

京極読書新聞 <第31号>

発行日 平成24年 3月 1日(木)
京極町生涯学習センター湧学館

湧学館・町の生涯学習の拠点へ

湧学館の選書方針は3つです。まず、①町民の健康で幸せな生活に役立つ本であること。そして、②学校支援、③ビジネス支援の本であることの三本柱です。この方針は、そのまま、この町に湧学館があることの意味ととらえてもらってさしつかえありません。

「水」「北」コレクションをつかったり、小中学校への出前図書館を行ったり、「平家物語」「峯崎ひさみ」読書会をひらいたり、湧学館の活動はあれこれ多岐にわたっているように見えますが、基本的にはすべての仕事はこの方針・原則に基づいたものです。

今年度は「住民生活に光をふりそそぐ交付金」が図書購入費についてため、湧学館の蔵書構成のみならず、京極町全体の蔵書構成を考えるよい機会になりました。幼児からお年寄りまで、学校図書館をもちろん含めて、必要な発達段階のそれぞれの場には必要な本がきちんと揃っている町「京極」をめざす元年のような一年間だったと感じます。
(新谷)



2011年度 出前図書館・読書会の一年 (2~3ページ目に続きます)

京極中学校

一年間をふりかえって

京極中学校 日光 貴美恵(にっこう・きみえ)

子どもたちってやつぱり本が好きなんだなあ——新校舎の図書室に本が入り、生徒たちの行動を見た私の最初の感想です。扉や壁の仕切りが無い中学校の図書室の造りは、生徒たちにとって本をごく身近に感じさつと手に取ることができる恵まれたものになっています。実際、休み時間には常に生徒が図書室に来て本を読んでいるのです。

昨年度は仮校舎での一年ということもあり、校内で本を手にする機会は本当に限られたものでした。それだけに、この図書室は生徒たちにとって待ちに待った施設と言えます。新しい図書室でも、昨年に続き湧学館からの出前図書を継続して頂きました。また図書購入には「光」交付金を充てて頂き、初めての取り組みとして例年湧学館で行なっているブックキャラバンを本校で行なって頂きました。実際に本を手に取り選本する生徒は、本当に生き活きた姿で楽しそうでした。新しい本が入るたび、生徒たちは図書室に足を運んでいます。毎日貸出し返却がある充実した図書館となっていることに感謝しています。

オープンスペースの図書室は、「室」という言葉に違和感があるほどです。気軽に立ち寄りすぐに本に触れることができる利点もありますが、初年度の今年はそれを十分に活かすきれなかった面があると反省しています。次年度以降、生徒とともによりよい図書室を目指し取り組んでいければと考えています。



■ 2011年度 実施スケジュール (資料展示) ■

5/6(金)、6/3(金)、7/7(木)、9/2(金)、10/6(木)、
11/1(火)、11/25(金)<ブックキャラバン>、12/2(金)



京極読書新聞は
毎月1日発行です。

京極小学校



■ 2011年度 実施スケジュール (展示テーマ) ■

- 5/26(木)「海賊」
- 6/16(木)「いぬねこハムスター」
- 7/14(木)「本は友だち(国語教科書掲載本)」
- 8/25(木)「外国のおはなし・しかけ絵本」
- 9/15(木)「宇宙・むかしむかしのおはなし」
- 10/27(木)「小学生はこれを読め！」
- 12/ 8(木)「学習漫画・季節の本」
- 1/26(木)「不思議な本・こわい本」
- 2/ 9(木)「武士・サムライ」
- 3/ 8(木) [実施予定]

南京極小学校



■ 2011年度 実施スケジュール (ブックトーク) ■

- 5/19(木)「ケンミン」・「空と雲」の本
- 6/23(木)「鳥」・「旅行」の本
- 7/21(木)「空飛ぶ乗り物」・「土の中から出てきたよ」の本
- 9/15(木)「すてきな三人ぐみ」ほか
- 10/20(木)「ねこ」・「いぬ」の本
- 12/15(木)「十二支」・「辰(竜)」の本
- 1/19(木)「竜」・「地図」の本
- 2/16(木)「いたずら」・「ワニ」の本
- 3/15(木) [実施予定]

一年間をふりかえって

京極小学校 後藤 実穂(ごとう・みほ)

出前図書館は、今年度で三年目を迎えます。毎月一回、木曜日の中休み・昼休みに、低学年・中学年・高学年の3ブロックに分けて、実施していただいています。湧学館の方が、それぞれの発達段階に合わせた作品を選んで下さるので、子どもたちも「今日はどんなお話かな。」と毎月とても楽しみにしているようです。

紙芝居や本の読み聞かせでは、どの子ども目もきらきらと輝かせ、本の世界に入り込んでいます。その姿を見ていると、本当に子どもたちは本が好きなんだなあと感じます。子どもたちをひきつける湧学館の方々の語り口は、本当に素晴らしいものです。

今年度、京極小学校では、新しい取り組みとして、11月末から12月の初めにかけて「読書週間」を設定し、読書にかかわる活動をしたり、図書委員会の児童が本の読み聞かせやクイズなどをするイベントを開いたりしています。このような取り組みを推進し、子どもたちが多くの本と出会うことにより、読書の習慣を定着させ、語彙力・表現力を高め、豊かな感性をはぐくんできてほしいと願っています。

湧学館職員の方々には、出前図書館を開催するにあたり、子どもたちのために多くの時間をかけて計画・準備をしていただいていることに、心より感謝申し上げます。子どもたちが読書に親しみ、豊かな感性をはぐくんできていけるよう、学校としても読書環境を整えていきたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひいたします。

一年間をふりかえって

南京極小学校 藤田 厚子(ふじた・あつこ)

ダンボール2箱分の本が、まるで宝箱のような存在感となる出前図書！「今回はどんな本が届くんだろうね。」と、ワクワクしているのは決して子ども達だけではありません。名作から絵本、時には仕掛け本までと、幅広いジャンルの本がテーマに沿って毎月紹介されます。びしり付箋の貼られた本の紹介が始まると、13名のキラキラした目は一斉にスタッフの方に集中します。じっと話に聞き入る子ども達、お話のおもしろさについて笑い声が漏れることも多々あります。そして、見事なブックトークのおかげで、さっそく本を手取る子が増えます。

給食後の少しほっとする一時、今年も子ども達は、新しい本とのたくさんの出会いがありました。そして、空・地図・鉄道など本を通して多くの物に興味を持つ機会がありました。私自身、今まで何校かの学校を経験してきました。ボランティアの方が年1～2回読み聞かせをして下さったことはありましたが、こうして定期的に出前図書が行われるという経験は、京極に来て初めてです。

出前図書は、より一層本が好きになる機会でもあります。児童会や授業の中でブックトークを経験した子ども達にとっては、内容やおもしろさを的確に伝える技術を学ぶ場でもあります。読むだけではない本の楽しさ！触れる・探す・考える…。いろいろな本の楽しみ方を紹介していただいた1年だったと思います。次年度、また新しいテーマの本に出会えることを、子ども達と共に楽しみにしています。

〈『平家物語』を読む会〉の一年

〈『平家物語』を読む会〉 講師 村山 功一（むらやま・こういち）

東北地方を中心とした未曾有の大災害に大きな衝撃を受け、心痛む一年間でした。同時に、「絆」という一字に象徴される私たち日本人のひとりの繋がりの強さ、暖かさ、優しさも感じました。今は、復興が一日も早くなされたいことを祈る日々です。

さて、私たち『平家物語』を読む会にとっても、今年度は記憶に残る一年だったように思います。

まず、岩手県平泉の中尊寺を中心とした史跡が、世界文化遺産に登録されたことです。それは、震災後の東北地方を大きく力づける快挙でした。と同時に、『平家物語』に親しむ私たちにとっても、とても嬉しいことでした。奥州藤原氏が治めたこの一帯は、源義経が青春時代を過ごし、そして非業の最期を遂げた地と伝えられています。また、平家一門が篤く信仰した厳島神社はすでに世界文化遺産に登録を果たしており、『平家』に関係ある史跡が二つも世界が認める人類の遺産となったわけです。ちょっと面白いと感じたのは、源頼朝によって滅ぼされた平家ゆかりの厳島神社と、頼朝との合戦に敗れ、滅亡した奥州藤原氏の拠点、平泉が世界遺産になり、勝者となって天下を取った頼朝の本拠地鎌倉（鶴岡八幡宮など）が、まだ世界遺産になっていない点です。歴史の皮肉でしょうか。

九月には、もはや恒例となった“黒滝レポート”を行いました。今回は彼女自身が参詣してきたばかりの厳島神社についてスライドを観ながらの説明・報告があり、併せて、かつて訪れた平泉についても触れていました。はからずも、『平家』を巡る二つの世界遺産が中心話題となったことも、印象深い出来事でした。

二つ目は、NHK大河ドラマ「平清盛」が始まったことです。これについては〈余談・平清盛〉に譲りますが、これに伴って多数の関連本が刊行されたことは、私たちにとって嬉しい限りです。湧学館ではこれらの本を多量に購入しました。中学生向けの入門書や、小学生対象の児童書も沢山入りました。この機会にぜひ『平家』に親しんでください。

そして三つ目は、私たちの会に新メンバーが二人加わったことです。これに意を強くしつつ、より易しく分かりやすい、そして何よりも楽しい会を目指して新年度に臨むつもりです。

最後に、会場準備や資料作成などでお世話になっている湧学館の皆様はじめ、関係各位に厚くお礼を申し上げます。一年間ありがとうございました。

〈平家物語読書会 活動状況〉

- | | |
|------------------|--------------|
| ・ 4/ 1 [巻3]行隆之沙汰 | ・10/ 7 山門牒状 |
| ・ 4/15 法皇被流 | ・10/21 南都牒状 |
| ・ 5/ 6 城南離宮 | ・10/ 4 永僉議 |
| ・ 5/20 [巻4]厳島御幸 | ・11/18 大衆揃 |
| ・ 6/ 3 還御 | ・12/ 2 橋合戦 |
| ・ 6/17 還御 | ・12/16 宮御最期 |
| ・ 7/ 1 源氏揃 | ・ 1/ 6 若宮出家 |
| ・ 7/12 鮑之沙汰 | ・ 1/20 通乗之沙汰 |
| ・ 8/ 5 鮑之沙汰 | ・ 2/ 3 鶴 |
| ・ 8/19 信連 | ・ 2/17 三井寺炎上 |
| * 9/ 2 黒滝レポート | [巻5]都遷 |
| ・ 9/16 競 | ・ 3/ 2 都遷・月見 |
| | ・ 3/16 月見 |

峯崎ひさみ読書会の一年間

峯崎ひさみ読書会 講師 新谷 保人（あらや・やすひと）

昨年の5月に7名でスタートした峯崎ひさみ読書会も、12月の最終回には9名に増えていました。ここに、仕事の関係で読書会には参加できないがテキストだけは毎回ほしいという2名を加えると(この人口約3千4百人の町にしては)驚くべき数の人が集まっていたように



に思います。峯崎さんの作品にそれだけの魅力があったということなのでしょう。

読書会で毎月読んでいたテキストは『約束 峯崎ひさみ作品集』という一冊の本にまとめられ、この3月の製本教室で完成する予定です。京極町が生み出した完全オリジナル作品。湧学館にしかない一冊となるでしょう。詳しくは「京極読書新聞」4月号でご報告します。

〈峯崎ひさみ読書会 読書作品〉

- ・ 5/27 「針」
- ・ 6/24 「小豆」
- ・ 7/22 「苺鉛」
- ・ 8/26 「影踏み」
- ・ 9/27 「茅の海に抱かれて」
- ・10/15 (小樽文学散歩)「春蘭」
- ・11/11 「約束」
- ・12/ 9 「踏切」

余談「平清盛」(2)

<『平家物語』を読む会> 講師 村山 功一 (むらやま・こういち)

大河ドラマ「平清盛」(以下「ドラマ・清盛」とします)は、順調に回を重ねています。そこで、今回の“余談”は、平太(元服後は清盛)の装束の一つを取り上げてみることにします。実は、平太清盛の服装・頭髪など、風貌にはなかなか面白い点が沢山あります。松山ケンイチ演ずる平太清盛は2回目から登場しますが、劇画的なその風貌は鞍馬山を抜け出してホームレスになった牛若丸のように、私には見えました。平太清盛の野性味と、反骨精神を表す演出のようですが、それにしても、過剰に汚らしい。先日の新聞に、兵庫県知事が「ドラマ・清盛」について「画面が汚い……！」と噛みついた記事がありました。たしかにそう思います。

汚さを我慢して、彼の頭のテッペンから足の先までジイッと見てみると(ああ、気持ち悪い)、色々な発見があります。その中で、まず注目したのが“指輪”です。

平太の頃はもちろん、清盛となってからも、その右手親指に今でいう“ファッションリング”のような指輪が嵌められています。お気づきですか。なかなかカッコイイのですが「ハテ？」です。よネ。平安時代に指輪を嵌めた日本人はいなかったはず。日本人がファッションとして、あるいは婚約や結婚の印として指輪を用いるようになるのは、明治維新以降のこと。もちろん、西洋文化の流入によってもたらされたものです。

「ファッションリングを嵌めた清盛がいたっていいじゃん、ドラマなんだから」と、言ってしまうばそれまでです。ところが、事はそう簡単ではありません。

百歩、いや千歩譲ってオシャレな平太が指輪を嵌めていたと仮定しても、その指輪が、右手親指の第一関節の下に嵌められていることが、実は問題だと思うのです。弓を引く場合に支障をきたすと思われるからです。当時の主要武器は弓矢です。武士は何をおいても弓を強く、正確に、速く(矢継ぎ早に)射ることが要求されるはず。少なくとも武士はそうであるための訓練をします。射芸は当時の武士の表芸なのです。もつと

も清盛は武芸は不得手であったようで、保元の乱の際、剛弓で知られる敵方の鎮西八郎為朝に「清盛の射る矢はへろへろ矢だ」と揶揄された話が『保元物語』に見えます。しかし、だからといってわざわざ弓射の妨げになるようなアクセサリーを身につけていたとは考えにくい。

第4回で、流鏑馬の練習に挑戦する清盛が、まったく的を射ることが出来ず仲間から嘲笑される場面がありましたが、その原因はひょっとしてあの親指の指輪では……と、余計なことながら、秘かに心配した次第です。〔以下次号〕



▲「春日権現験記絵」より騎射を行う騎兵

[参考図書] 前回の参考図書と重複するものは除く
* 印は湧学館所蔵

- *『日本衣服史』 (増田美子/編・吉川弘文館)
- *『時代風俗考証事典』 (林美一/著・河出書房新社)
- *『大河ドラマ入門』 (小谷野敦/著・光文社新書)
- ・『装束の日本史』 (近藤好和/著・平凡社新書)
- ・『有職故実(上)(下)』 (石村貞吉/著・嵐義人/校訂・講談社学術文庫)
- ・『保元・平治物語の世界』放送ライブラリー26 (水原一/著・日本放送出版協会)
- ・『源平争乱と平家物語』角川選書322 (上横手雅敬/著・角川書店)

発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京極町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

